

# 足場からの墜落・転落災害防止の充実に係る 労働安全衛生規則の一部を改正する省令等について

厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課

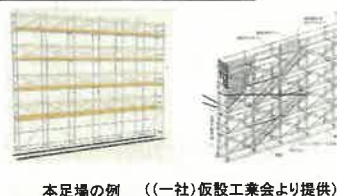
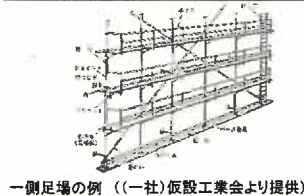
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

27

## 改正労働安全衛生規則について

### 1 一側足場の使用範囲を明確化

主に狭あいな現場で使用される一側足場については、その構造上、安衛則に定める手すりの設置等の墜落防止措置が適用されないところ、一側足場からの墜落・転落災害が発生している（※）ことを踏まえ、本足場を使用するために十分幅がある場所（幅が1メートル以上の場所）においては、本足場の使用を義務付けるもの。ただし、つり足場を使用するとき、又は障害物の存在その他の足場を使用する場所の状況により本足場を使用することが困難なときは、この限りではないこととするもの。



（※）令和元年～3年に発生した足場からの墜落・転落による死亡災害56件のうち、8件が一側足場からのもの。

### 2 足場の点検を行う際、点検者を指名することを義務付け

足場（つり足場を含む。以下同じ。）からの墜落・転落災害が発生している事業場においては、安衛則で義務付けられている足場の点検が行われていない事例が散見されていることを踏まえ、事業者又は注文者による足場の点検が確実にされるようにするため、点検者をあらかじめ指名することを義務付けるもの。

### 3 足場の完成後等の足場の点検後に記録すべき事項に点検者の氏名を追加

事業者又は注文者が悪天候若しくは地震又は足場の組立て、変更等の後の足場の点検を行ったときに記録及び保存すべき事項（現行では当該点検の結果及び点検結果に基づいて補修等を行った場合にあっては、当該措置の内容）に、当該点検者の氏名を追加するもの。

### 4 施行日等

公布日：令和5年3月14日

施行期日：1については令和6年4月1日、2及び3については令和5年10月1日

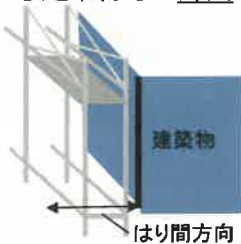
28

# 一側足場の使用範囲の明確化について

## 1 「幅が1メートル以上の箇所」について

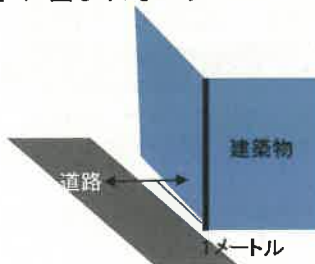
### 基本的な考え方

足場を設ける床面において、当該足場を使用する建築物等の外面を起点とした**はり間方向の水平距離**が1メートル。



### 例外について

足場設置のため確保した幅が1メートル以上の箇所について、その一部が**公道にかかる場合、使用許可が得られない場合等**は、「幅が1メートルの箇所」に含まれない。



### 事業者が行うべきこと

足場の使用に当たっては、**可能な限り「幅が1メートルの箇所」を確保すべきもの**。

注：図はイメージ。分かりやすくするため足場等は簡略化して図示しています。29

# 一側足場の使用範囲の明確化について

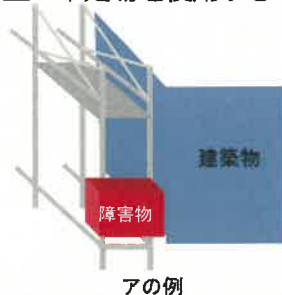
## 2 「障害物の存在その他の足場を使用する場所の状況により本足場を使用することが困難なとき」について

足場を設ける床面において、はり間方向の水平距離が1メートル以上の場合においても、本足場を使用することが困難な場合のこと。

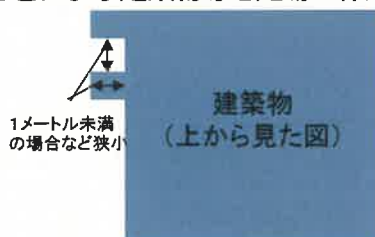
### 具体例

注：図はイメージ。分かりやすくするため足場等は簡略化して図示しています。

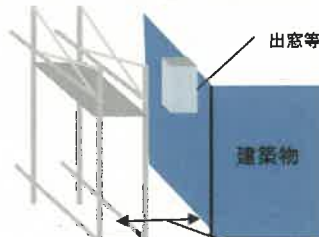
- ア 足場を設ける箇所の全部又は**一部に撤去が困難な障害物**があり、建地を2本設置することが困難なとき。
- イ 建築物等の外面の形状が複雑で、1メートル未満ごとに**隅角部を設ける必要**があるとき。
- ウ **屋根等に足場を設けると**き等、足場を設ける床面に著しい傾斜、凹凸等があり、建地を2本設置することが困難なとき。
- エ 本足場を使用することにより建築物等と足場の作業床との間隔が広くなり、墜落・転落のリスクが高まる時。



アの例



イの建築物の例



エの例

間隔が広く、墜落のリスクが高まる

## 3 その他

- 足場を設ける箇所の一部に撤去が困難な障害物があるとき等において、建地の一部を1本とする場合は、足場の動揺や倒壊等を防止するのに十分な強度を有する構造とすること。
- 建築物と足場の作業床との間隔が30センチメートル以内とすることが望ましいこと。

